



# 試練の日米同盟を考える

## 沖縄基地問題、緊張する朝鮮半島、そして中国の台頭の中で

はっきりした見通しも戦略もない鳩山前首相の言動が、沖縄の県民感情に火をつけ、日本とアメリカの信頼関係をゆさぶった。

その負の遺産を引き継いだ菅新首相が、日米合意具体化の期限である 8 月末を前に、どこまで日米同盟の修復を果たせるのか。

1960 年 6 月の日米安保条約の改訂から 50 年、沖縄の米軍基地を固定化しさらに拡大してきたツケが国民全体に突きつけられていると言える。

緊迫する朝鮮半島情勢に加えて、中国の影響力が日に日に強まる中で、今こそ日本とアメリカの関係を広い視野からとらえ直す必要がある。

わが国の代表的なアメリカ・ウォッチャーとして、50 年にわたって日米問題を取材し発信してきたジャーナリストの松尾文夫氏が、最新の沖縄取材をふまえて、これからの「日米関係のゆくえ」について語る。

松尾氏は 2・26 事件で岡田啓介首相と見誤って銃殺された岡田首相の義弟の松尾伝蔵陸軍大佐の孫にあたり、1945 年 7 月福井市旭小学校に在学中福井空襲に遭い、大野市で疎開生活を送った。松尾氏にとってこの体験が日米関係に取り組む原点となった。



沖縄・辺野古にて取材中の松尾氏



まつ お ふう お  
講師 **松尾 文夫**

1933 年生まれ。学習院大卒。1956 年共同通信入社、ニューヨーク・ワシントン特派員、バンコク支局長、ワシントン支局長、共同通信マーケティング社長など歴任。2002 年、ジャーナリストに復帰。2004 年、著書「銃を持つ民主主義 - アメリカという国のなりたち」が第 52 回日本エッセイストクラブ賞受賞。その他日米関係についての著書・論文等多数。2008 年 6 月より福井ふるさと大使。2005 年から日米首脳によるハワイ真珠湾と広島相互訪問によって「同盟」の基礎を作り直すことを提唱し、日米両国で反響を広げている。2009 年 8 月「オバマ大統領が広島に献花する日」(小学館 101 新書、720 円) を出版。2010 年 2 月同書の音声版を発売。

さかた みきお (福井県立大学) 副学長  
コーディネーター **坂田 幹男**

日時 **2010年 7月31日** 土 13:30~15:00

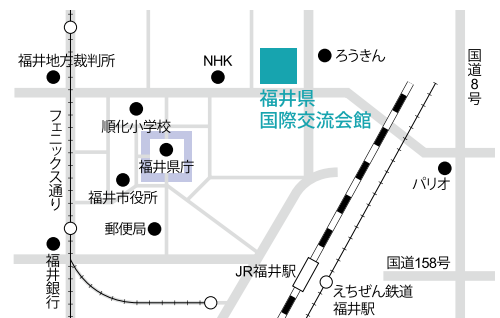
会場 **福井県国際交流会館 3階特別会議室**

定員 **150名** 受講料 **無料**

お問合せ **福井県立大学研究推進課**

〒910-1195 福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島 4-1-1 電話 0776-61-6000 内線 1019

お申込み 下記にご記入の上、FAX いただくか、上記あて郵送してください。



【徒歩の場合】JR福井駅から約10分(タクシーをご利用の場合約5分)  
【お車の場合】福井ICまたは福井北ICから約20分  
※お車の方は、交流会館東側の臨時駐車場にお止めください。  
(台数に限りがありますのでご了承ください)

お申込み書

ご住所 〒

福井県立大学  
研究推進課 へ

ご芳名

FAX **0776-61-6012**

お電話 ( )